

再生可能エネルギー事業視点から考える 被災地の農業復興の可能性

2013年3月15日

サステナジー株式会社

〒108-0074 東京都港区高輪1-25-2
03-5475-5277

www.sustainergy.co.jp



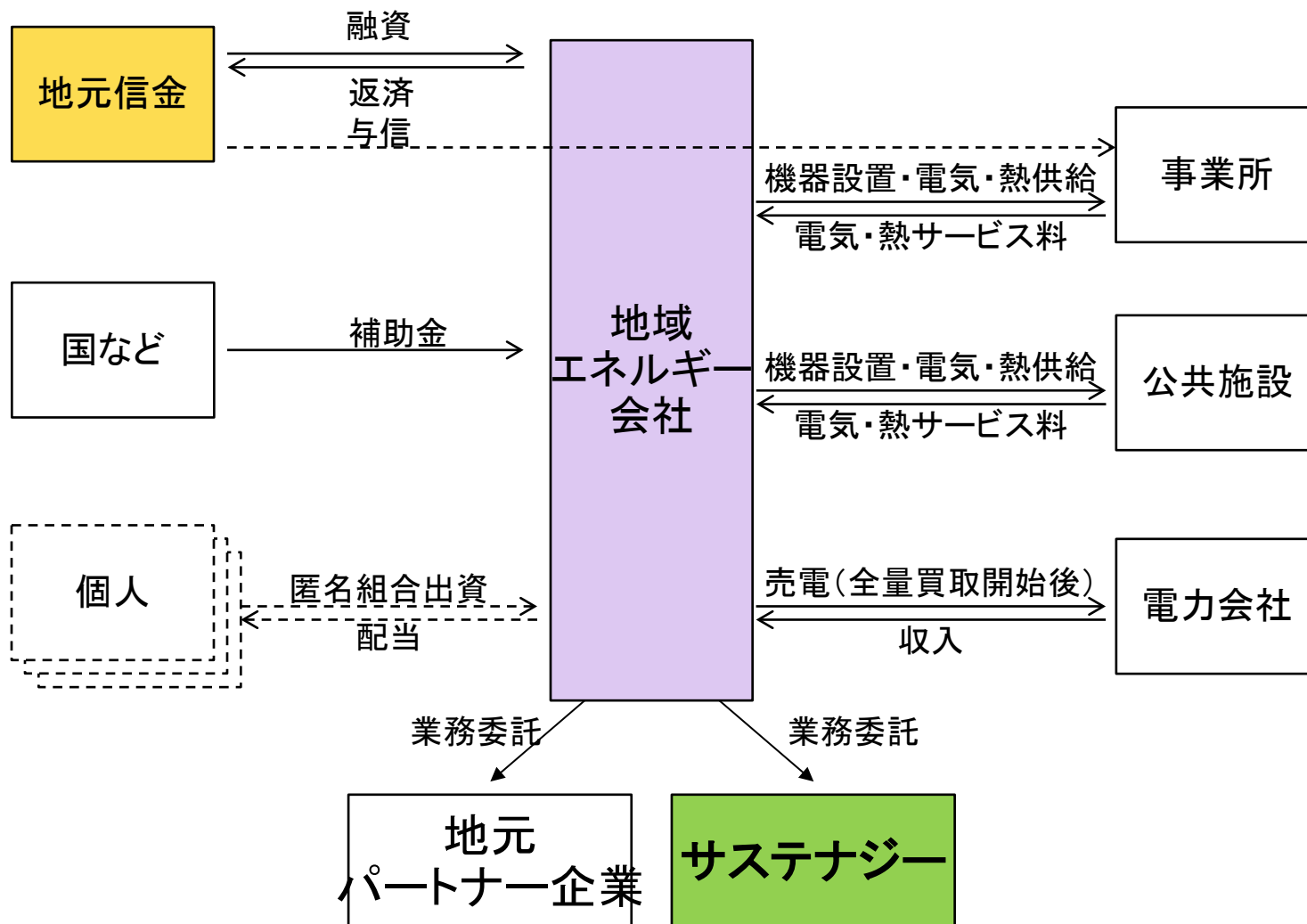
SUSTAINERGY

未来へつなげるエネルギーの実現

現在、盛岡、東松島・石巻、気仙沼の3拠点に地元信金、地元パートナー企業と会社を設立し、再生可能エネルギーの導入事業を推進中。



地元金融機関である信金の融資を核に、ユーザーの建物にユーザーの初期投資ゼロで設備設置を行い、長期のサービス料金にて投資を回収する。



地域の金融、パートナー企業と組んだ事業を立ち上げることにより、直接的な地域還元の仕組みを作りながら再生可能エネルギー事業を加速させることができるようになった。

1.地域JVを設立し、地産地消のエネルギー創出で経済活性化

- 地域のJVを作り、**地元での雇用を創出する**
- 外部から買っている石油などの量を減らすことで、**地域内で循環するお金を増やす**
- 将来的な原油など化石燃料の値上がり、人口減少による国力低下に対応への布石

2.新たな融資先確保と資金使途の限定

- 保有する資産はあるが**貸付先に困っているという地域金融の課題を逆に活用**
- ただし、エネルギー設備更新に限定した資金活用
- 設備導入先も金融機関の与信情報により安全性の高いところを選定
- 実行はエネルギーのプロフェッショナルに任せられる

3.ユーザーサイドの資金負担を軽減

- **ユーザーの初期投資ゼロで再生可能エネルギー設備の導入が可能**
- **これまでのエネルギーコストと変わらない支払い**で再生可能エネルギーの利用が可能
(重油ボイラーなどの化石燃料ボイラーからバイオマスボイラーなど)
- 15~20年後には設備を無償譲渡、以降はコスト負担なし(メンテナンス費別)に使いたい放題

4.自治体との連携

- **財政的な負担なく行政の環境活動を支援**

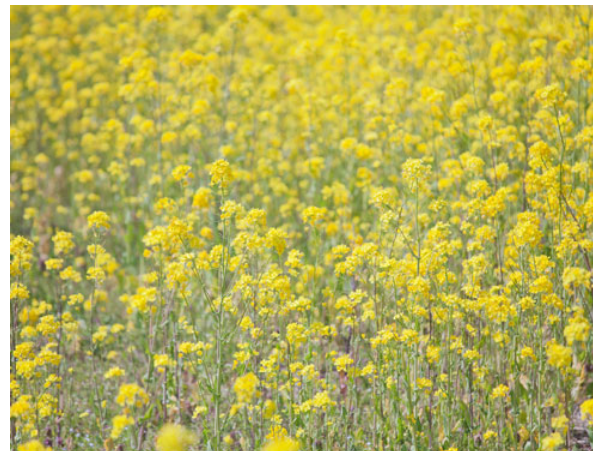
一般的にはソーラーシェアリングやエネルギー作物の栽培などの半農x半エネルギーがある。



ソーラーシェアリング
売電収益とその下で育てる作物の収益

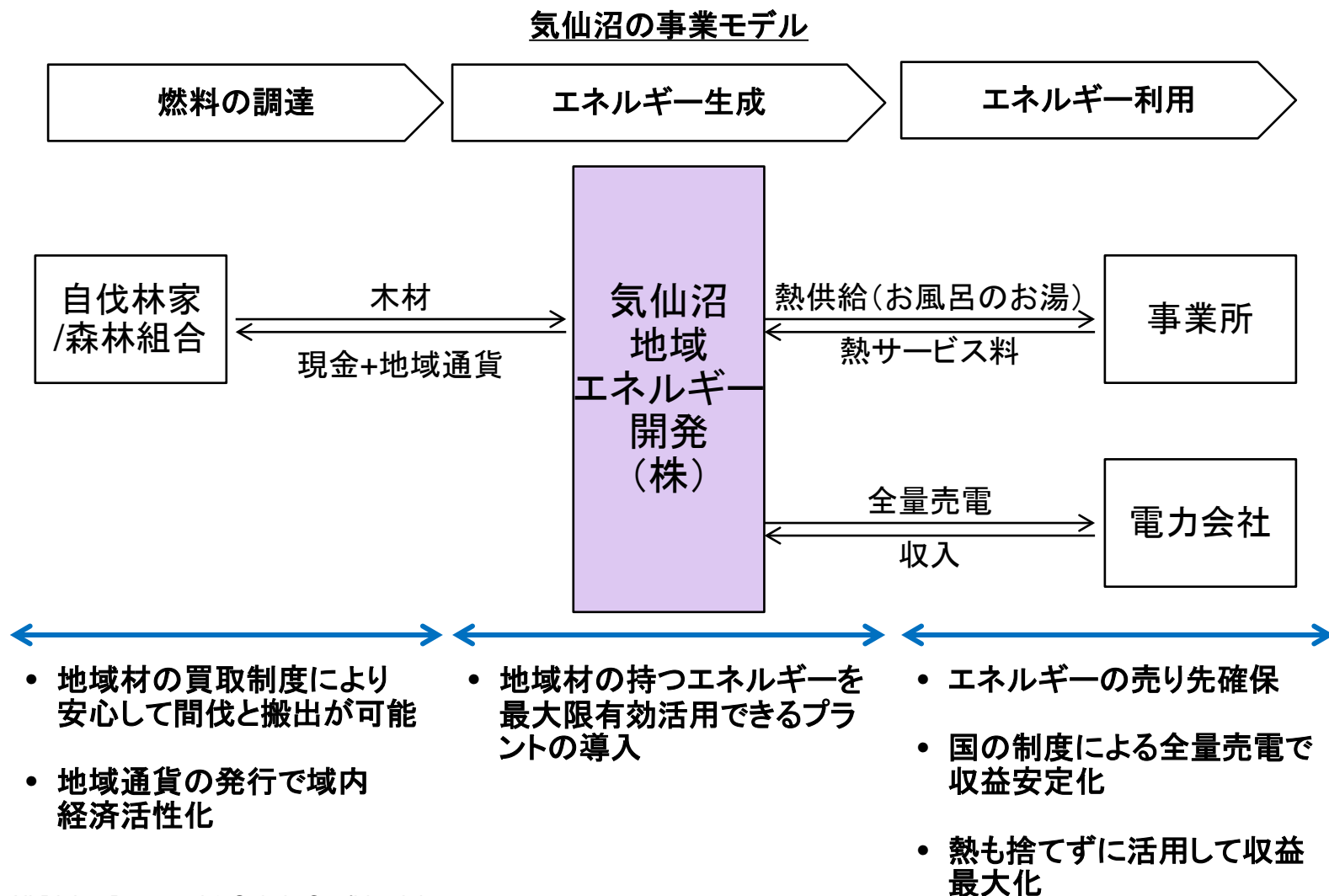


飼料米
バイオエタノールなどに活用



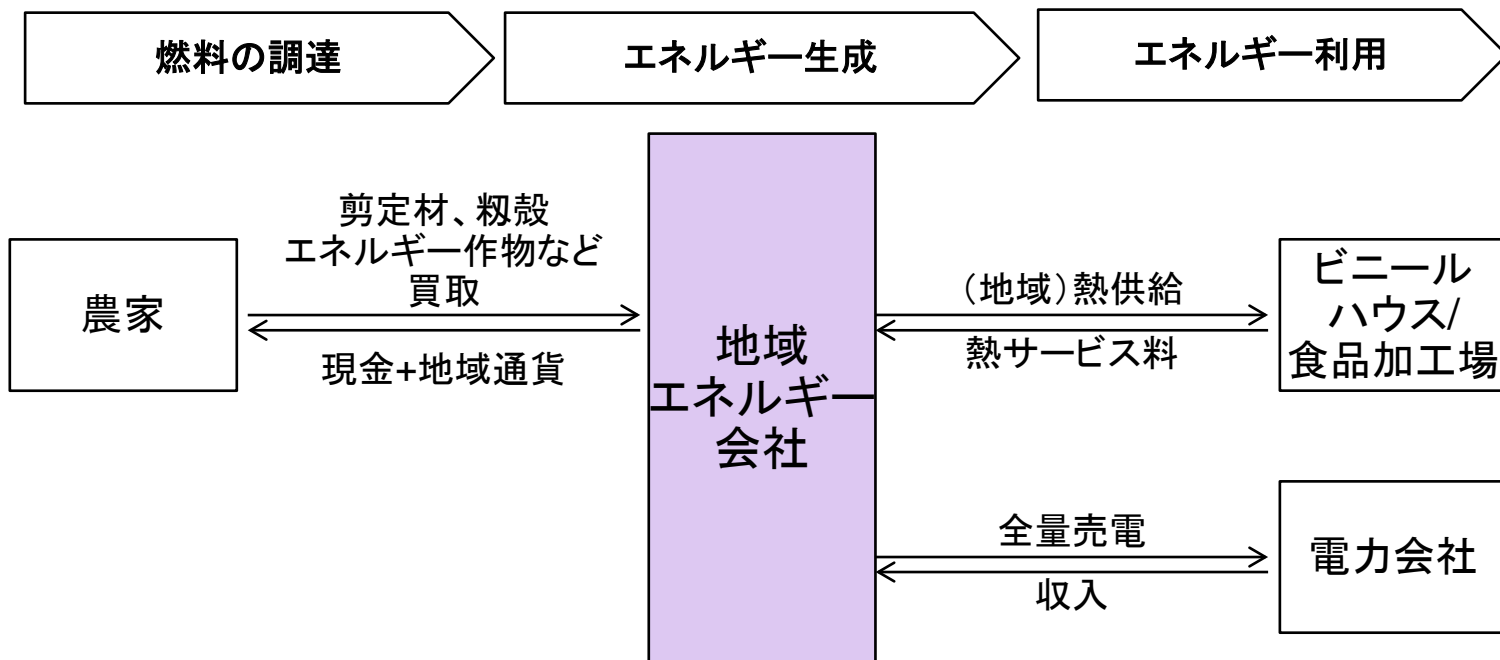
菜の花プロジェクト
耕作放棄地などで菜の花を栽培し燃料として利用

先に木材需要を作り出し、そこでは安定したビジネスとしての全量売電とエネルギーを余すところなく使い切るための熱利用まで行う。結果として山に戻せる価値が安定し、増加する。



農業から出る剪定材や籾殻などの木質系廃棄物を安定的に買取、エネルギーへ転換する事業が構築できないだろうか？またそれらが農閑期の雇用創出につながる仕組みにできないだろうか？

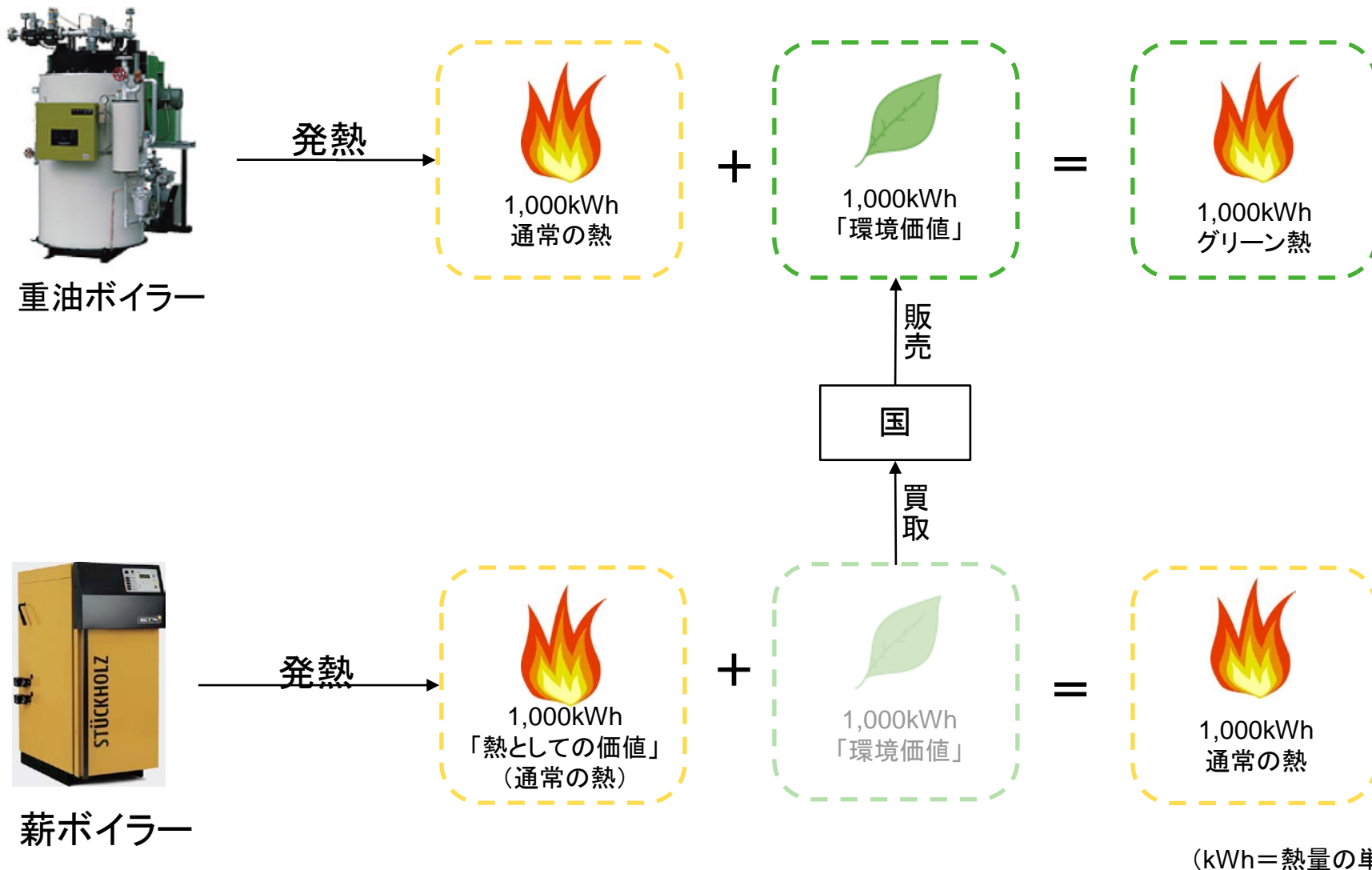
木質バイオマス事業構造を適用した農業モデル



← ビジネスの組み立ては下流から考える

農業従事者の副収入増加施策(案)

例えばビニールハウスなどの熱源をバイオマスに置き換え、そこから出る環境価値(CO2削減など)を国が全量買取などの擬似的な熱の全量買取制度を検討してはどうか？





ご清聴ありがとうございました

サステナジー株式会社

三木 浩

hiroshi.miki@sustainergy.co.jp